主題名「よいと思うことを」

（A善悪の判断、自律、自由と責任）

教材名「ダメ」

＜本授業の意図＞

〇入学して半年がたち、児童は学校生活にだいぶ慣れてきた。学校や学級の一員として、そのルールを守ろうと自ら行動したり、友達に声をかけたりする児童も多い。一方、自分の考えが伝わらず、自分のいやな気持ちが募ってしまうこともある。この授業では、自分のよいと思ったことを、すすんで伝えられる態度を養う授業である。

①みんなが一番好きな食べ物が友達に食べられてしまったらどうしますか？

②「ダメ」を紙芝居で読む

③くまくんにダメと言えなかった夜、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。

④「言いたい」気持ちと「言えない」気持ちを分けて板書する。

⑤くまくんが謝ってくれたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。

⑥登場人物のお面をかぶらせ、発表させる。

⑦「ぼく」のようにドキドキするけど勇気を出して自分がいいと思うことを言えてよかったこと、自分で言えてよかったなと思うことが発表できました。今、思いつかなかったという人も、お友達のことを聞いて、自分にもあると思ったかもしれません。

＜「主体的な学び」の実現に向けての手だて＞

・導入・終末の工夫　⇒自分だったらどうするかを問うことで、自分事として考えられるようにし、紙芝居にして教材文を提示することで、児童がその内容を理解しやすくなるように工夫した。登場人物のお面を使って発言させることで「ぼく」気持ちになって発言できた。

＜主な「考え」の変容＞

・自分が良いと思うことが言えて、すっきりしたことは　⇒　「友達とけんかをして強い声で言ってしまった。次の日にお母さんと相談して自分で謝った。」など